

入選

矢吹町と水

いつも私たちの身近にある、水。家事や食事、農業などで使われており、生活する上で必要不可欠な存在だ。

私の住んでいる町は、「田園のまち」と呼ばれるほどの豊かな田んぼが広がっている。小学校では田植への体験なども行った。そんな当たり前にある田んぼだが、ほんの数十年前までは想像もできないような景色だろう。今ある「当たり前」はたくさんの努力によつて作られたものである。

私の町、ここ矢吹町は福島県にあり、日本三大開拓地の一つである。日本三大開拓地とは、戦後大規模な国営開拓事業が成功した土地のことだ。元々矢吹町には、荒涼とした原野が広がっていた。水利が悪いこの地は、なかなか発展しなかったという。昔、この町には水が通っていなかったのだ。水がな

矢吹町立矢吹中学校 三年 黒田^{くろだ} ゆきの

いと農業が行えず発展しない。今の矢吹町は、水のおかげで作られたものであった。その後、水を得ることが大きな課題となった。矢吹に住む人々は様々な案を考えたが、なかなか実現することはなかった。長い間人々を苦しめていた水不足だったが、ようやく解決策が出た。羽鳥ダムの造成である。その後も様々な苦労を重ね、昭和三十一年に完成した。ダムからの通水が開始すると、瞬く間に農業が発展していったそうだ。こうして、田園のまちは作られたのだ。

私は小学生の時、羽鳥ダムに見学に行ったことがある。日本の中でも大規模なダム湖の羽鳥湖は「ダム湖百選」にも選ばれているという。大量の水が勢いよく流れていく様子は少し怖かったのを覚えている。また、ここで流れている水が水道水として使わ

れると考えると、少し不思議な気持ちになった。このダムのおかげで矢吹町がある。そう思うと水を大切にしようと思えるようになった。

こうして考えると、水の大切さについて改めて気づくことができた。しかし、水を大切にするには、どのようなことを行えばよいのか。私は今までの生活の些細なことから変えていくべきだと思う。例えば、手を洗うときには一度水を止める、髪や体を洗うときには桶に水をためたり、節水用のシャワーヘッドを取り付けたりするなど日頃からできることはあると思う。私達は身近に水があるせいで水を大切にしている、という気持ちが薄れているような気がする。水がないとどうなるのか、水のおかげでどう変わったのか、などと考えると、水の大切さに気づくことができると思う。日本は水に恵まれているが、海外には飲み水さえ手に入らない場所もある。いつでも水が手に入るといふありがたさを考え、その気持ちを大事にしていきたい。

私は自分の町の歴史から、水についてよく考えることができた。いつも当たり前にある景色は、たく

さんの努力が積み重なった大切なものだということにも気づくことができた。今あるこの生活は、昔の人の努力と水のおかげで成り立っている。その努力を無駄にしないためにも、自分には何ができるかを考えていきたい。今、当たり前にある水。しかし、水が手に入るといふことは、とてもありがたいことだということを忘れてはいけない。水を大切に思う気持ちを忘れず、小さなことから心がけていきたい。

「田園のまち」矢吹。しかし、この田園を作るためには水が必要だった。長い時間をかけ、ようやく届いた水。私達が使っている水には、そんな歴史があったのだ。水があることを当たり前だと考えてはいけない。これからは水があることに感謝しながら、大切に使っていきたい。